

産業建設委員会記録

令和 7 年 9 月 25 日(木)

10 時 03 分～11 時 00 分

第 3 委 員 会 室

【委 員】川上委員長、田畑副委員長、

村木委員、大谷委員、小川委員、佐々木委員、牛尾委員

【議長・委員外議員】

【事務局】小寺書記

議題

- 1 議会による事務事業評価に係る評価意見書の作成について（委員間で協議）
- 2 取組課題のまとめについて（委員間で協議）
- 3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 03 分 開議]

○川上委員長

出席委員は7名で定足数に達しているため、産業建設委員会を開会する。レジュメに沿って進める。

1 議会による事務事業評価に係る評価意見書の作成について（委員間で協議）

○川上委員長

本日は、委員会として議会評価意見書を完成させたいと考えている。

まず、資料を確認する。議員事務事業評価シートについて、先般の予算決算委員会での決算審査を踏まえ、提出されたものが3事業ある。ふるさと体験村維持管理事業、担い手等育成支援事業、浜田市商業活性化支援事業である。

続いて、議会評価意見書の素案である。当委員会で進めてきた所管事務調査などを踏まえて作成したものである。参考として、各議員の評価の状況を一覧にした資料もある。提出があった議員事務事業評価シートを踏まえ、議会評価意見書の素案に追記や修正が必要なものがあれば、委員会の意見を加えていく。1事業ずつ確認する。

まずは、ふるさと体験村維持管理事業である。当委員会の素案では、事業内容は「要改善」予算規模は「現状維持」となっている。追記や修正などの意見があれば願います。執行部への提案内容は、先般の意見も踏まえ、「検討されたい」また、「取組を検討されたい」を加えている。これでよろしいか。

（ 「はい」という声あり ）

○小寺書記

議員事務事業評価シートで、柳楽議員がエアコンの整備のことを書いており、串崎議員や川神裕司議員が教育の場としての位置付けといった意見、川神裕司議員からは「弥栄の体験村から浜田の体験村へ」という位置付けが求められるという意見があったが、その点はよろしいか。

○川上委員長

当委員会としての考え方であるので、各議員の意見も含めて考えなければならぬ。それか、それらの意見はもう既に踏まえたものとして、この意見を出すか。エアコンは確かに必要かもしれないが、そこまで整備する必要があるかどうかは疑問がある。

○牛尾委員

エアコンはレストランか。

○川上委員長

そうだと思う。今、外気温も 30℃から 34℃くらいになっているので、ある時期は必要かもしれない。

○村木委員

大きい扇風機とスポットクーラーを入れている。

○佐々木委員

エアコンの話も聞き取りで出て、合宿に泊まりに来た人が激怒された。なぜエアコンがないのかということはあるのか。ただ、それを事務事業評価に入れる必要があるのか。

○川上委員長

そのことも含めて事務事業評価に加えるかどうか。それから、川神裕司議員からの浜田のふるさと体験村へという意見。

○村木委員

それは入れているつもりである。

○川上委員長

この中に書かれているということである。

○牛尾委員

評価判定に至った理由にいろいろ書き込んであるので、文言だけで「弥栄の体験村から浜田の体験村へ」という点にこだわる必要はないのではないかと考える。

○川上委員長

そういう意見もあったが、それも含めて当委員会として、このような評価理由と提案内容とした。これは全員協議会で発表することになるが、その方向でよろしいか。

○佐々木委員

教育の場、浜田の体験村、それぞれいろいろな思いがあるのだろうが、実際に聞き取りをしながら現場で事業そのものを見ると、様々な要望が出てくると思う。それを全て入れると事務事業評価とは違う、施設に対する要望のようになってくると考える。提案内容のところに少し入れることはあるかもしれないが、意見としてどこまで入れるべきか。他の事業との兼ね合いもある。

○川上委員長

要望が強くなると事務事業評価から離れていくのではないかと感じるので、意見としては聞いた上で、このような形にまとめている。

○村木委員

「将来的には持続可能な中山間地域」という部分は、弥栄だけではなく中山間地域全体として、保育、コワーキングスペース、ワーケーションといったものを取り入れれば、おのずと空調や広いエリアの必要性なども加味されるというつもりで記載している。

○川上委員長

提案内容の最後の部分に、そういった趣旨も含まれているということである。

○大谷委員

今回は事業を継続するかどうか、今後どのようにしていくかという観点で評価しているので、この内容で基本的に良いかと考える。村木委員からも言われたように、持続可能な中山間地域という観点の中で、やはり利用者視点を追求していかなければ、

当然施設の運営は難しいと思うので、そういった観点はこの言葉の中に含まれているという理解で進めていただいて良いと考える。

○川上委員長

それでは、そういう形で進めてよろしいか。

(「はい」という声あり)

では、続いて担い手等育成支援事業である。委員から追記や修正などの意見をお願いする。当委員会の素案では、事業内容は「要改善」、予算規模は「縮小」としている。

私から一つ提案したいが、予算規模を「縮小」と判断した根拠として、評価理由の最後に、「特に収益性向上支援事業では顕著に感じられた。」という文言を追加し、提案内容の最後に、「また、評価で述べたように、課題とした収益性向上支援事業は、継続して事業を行うのであれば、補助対象者、物品の基準を整理するとともに、効果が確認できるまで、予算を半減して執行すべきである。」という文言を加えてはどうかと考えている。田畑副委員長や小川委員が実際にヒアリングした内容が生きてくると考える。全廃するとこれまでやってきたことが駄目だったという判断になる。

○田畑副委員長

3,200万円を担い手等育成支援事業に使うのも良いが、どこまでやるかは精査しないといけない。ばらまきみたいになってはいけない。

○川上委員長

産地振興事業補助金の中の収益性向上支援事業、20件で1,148万9,000円、これを半減して内容を精査して実行されたい。効果を確認してほしいという方向で書きたい。

○大谷委員

半減とされた根拠、考え方はどうか。

○川上委員長

私が全廃を考えていた中で、中間的な案として半減という考えが出てきたものである。不要ではない。

○大谷委員

半分の根拠が見えなかった。

○川上委員長

そのために、補助対象者や物品の基準を整理し、半減して実行してはどうかという提案である。

○大谷委員

全体が見えない中で半減という言葉の妥当性がしっくりこない。

○川上委員長

それは分かる。皆がどう判断するか。

○牛尾委員

聞き取りをした委員の意見を重要視する必要があるのではないか。委員長は半減というまとめだが、直接聞き取りをした委員はどう思っているか。

○田畑副委員長

確かに半減とすると、その内訳を問われると思う。予算に対して2割は使っていない中で、収益性向上支援事業1,150万円の中には、農業用ドローンなども入っており、駄目とは言わないが、もう少し精査して、支援できるものは支援し、できないものはしないという線引きをすべきではないかと考える。現状のままではやりすぎな気がするので、規模の縮小や見直しが必要とまとめている。

○小川委員

公平公正な支援制度としてふさわしいかを考える中で、言った者勝ちのようなどころや、大きな力があるところに支援が行きそうでないところが外れてしまうといった側面もあるようだった。そういった基準を明確にするためには、少し予算規模を縮小して精査する必要があるのではないかとということである。ただ、縮小の規模の目安が分かりにくいいため、半減という言葉を使っていただいたので、それが妥当と考えた。

○佐々木委員

収益性向上支援事業20件で1,150万円について、具体的にどの程度が工具に使われているのか。無駄なところが工具ということなので、20件のうち数件だとすると、これを半額というのは大きい気がする。具体的に事業費の中身が分からないので、どこを削減するというのが想像しにくい。

○川上委員長

例えば、「小器具や小機材については見直すべきである」というのはどうか。

○佐々木委員

そういう表現なら良いと思う。額を半額という表現だと事業費全体を見ていかないといけないので、そういう表現のほうがふさわしいと思う。

○川上委員長

では「効果が確認できるまで、小器具・小機材を対象として予算を減額して執行すべきである」といった表現でどうか。令和6年度の実績を踏まえ、そういう器具にどの程度補助金を出したかを踏まえて、予算を削減すべきという形でどうか。

○村木委員

予算規模の「縮小」というのは、半減ではなく縮小という言葉でまとめるということか。今回、当委員会以外の議員は「現状維持」が数字的には多いようである。その配慮はどうか。

○川上委員長

「現状維持」が1人多い。均衡している。当委員会としては、ヒアリングの結果、当委員会としての考え方はこうである。皆の意見は半々であったがこうしたといういい方になると思う。

先ほどの言葉を少し修正して、後ほど皆で確認するということで良いか。

(「はい」という声あり)

最後に、浜田市商業活性化支援事業である。委員から追記や修正などの意見をお願いする。他の議員からは「現状維持」という意見が出ていた。私どもの委員会の評

価理由や提案内容については、委員会としてヒアリングなどを行った結果、このようになっている。実際にヒアリングした意見を生かしたいと考えるが、どうか。

○牛尾委員

聞き取りをするといろいろな面があった。例えば、にぎわいを創出する事業に関して、集まった客が商店街に流れて買い物をするのは、ほとんど見当たらなかった。それほど商店街が疲弊している。しかし、商店街に来て憩いを求めている親子連れなどは結構来ている。約 15 年前に商店街が客を呼び込んでいた実態とは大きくかけ離れているが、商店街の一角を使って市民に憩いの場を提供しているのは間違いない。そこをどう評価するかということで執行部に聞き取りをしたところ、補助金を継続して商店街に来てもらい、サードプレイスと一緒に、市民に憩いを与えているという点で評価しているとのことだった。

○川上委員長

この商業活性化支援事業は、活性化のための呼び水としてのイベントなどであり、それが実際に売上につながっているかどうかは別の話であるが、事業として成り立っているのは事実だと思う。評価理由にも「一部改善すべき点は見受けられるが、評価に値するものである」と記載している。このようなまとめ方でどうか。

○大谷委員

以前に比べてにぎわいの質などが変わってきていると思う。以前は商店街に行かないと物が買えない状況であったが、現在は通販などで買うことができる。市民はお互いにつながることににぎわいを求めるようになってきていると思うので、こうした取組は一定の効果があったと思う。この前の三桜跡地のイベントを見ても、出店された方はそこをきっかけにつながろうという取組をしておられた。人が集う取組は難しい点もあるが、一定の効果があるものとして評価できると考えている。

○川上委員長

評価理由の最後に「若者や子ども連れの参加を増やすということは評価に値すると判断する」と記載している。大谷委員の意見も含め、説明を求められた際にはそのように答えることになる。それでは、これでよろしいか。

(「はい」という声あり)

それでは、担い手等育成支援事業について少し修正を加えた上で、今回の協議で決定したものを、当委員会で作成した議会評価意見書として、明日の全員協議会での資料として提出するので、よろしく願います。

暫時休憩して資料を修正する。

[10 時 29 分 休憩]

[10 時 40 分 再開]

○川上委員長

委員会を再開する。

先ほど皆からの意見に基づき、担い手等育成支援事業について修正した。

まず、評価理由の下から3行目に「特に収益性向上支援事業では顕著であった」としている。2行目に「予算規模を縮小して」と入れている。執行部への提案内容については、「また、収益性向上支援事業については、小機材・小機器への補助は見直す必要があるため、令和6年度の補助実績を踏まえ、該当金額相当を縮小されたい」という方向で書いている。これでよろしいか。

(「はい」という声あり)

それでは、この内容で明日の全員協議会の資料として提出する。

2 取組課題のまとめについて（委員間で協議）

○川上委員長

当委員会の取組課題5項目をまとめた議長への報告内容を、正副委員長と事務局で作成している。追記や修正があれば意見をいただきたい。

○大谷委員

道の駅ゆうひパーク浜田の(3)の調査を踏まえた委員会としての考察のイは「販売を生かして」ではないかと思った。それと、地域小売店の問題について、今後の対応の中にコンパクトシティの観点は要らないのか。今後、産業建設委員会でもこのことは議論する必要があるという点で、方向性の中にこの視点を加えてみてはどうか。3点目に、小規模農家への支援についてだが、今後の対応のところに、地産地消の観点を語句を入れて考えていく必要はないか。

○川上委員長

大谷委員から意見があった。

1点目は、道の駅の考察の「販売を生かして」に修正。

2点目は、地域小売店の今後の対応に「コンパクトシティの観点」を加える。

3点目は、小規模農家への支援の今後の対応に「地産地消の観点」を加える。

ほかにあるか。

○牛尾委員

ゆうひパーク浜田の問題だが、調査を踏まえた委員会としての考察で、市民からよくあったのは、家族が楽しめる場所を創ってほしいという要望であった。ぜひ、家族が楽しめるような空間の整備という文言を入れてほしい。

○川上委員長

家族が楽しめる環境整備ということである。

○大谷委員

家族という観点も大事だが、一般の利用者も包括できるような言葉が望ましい。ある一定時間滞在ができるような空間であれば、家族もそこで楽しめるということが包括できるかと思った。

○牛尾委員

市民が楽しめるという施設が良い。浜田市で買い取った道の駅であるから、地元

の人に愛されなければ意味がない。市民が楽しめるようなという言葉が、家族に限定するより良いのではないか。

○川上委員長

「夕日の絶景を生かしながら、市民が楽しめる施設」としてはどうか。

(「はい」という声あり)

次に、地域小売店の問題について、コンパクトシティの観点をどこに入れようか。「コンパクトシティを見据えつつ、浜田駅周辺活性化へ向けた取組」といった形で入れるのはどうか。

(「はい」という声あり)

では、そのように修正する。

それから、小規模農家の支援について、地産地消の観点を加える件だが、これも冒頭を「地産地消の観点から」として始めようか。あるいは、「次期の委員会においても」の前に加える形でも良いかもしれない。

○牛尾委員

自民党の総裁選でも、大規模農家支援と小規模農家支援は二本立てで言っている。

○川上委員長

では、地産地消の文言は入れて修正する。

○村木委員

コンパクトシティの関係で富山市へも視察に行っている。先進地視察に富山市を追加する必要がある。

○川上委員長

了解した。4件修正する。暫時休憩する。

[10 時 53 分 休憩]

[10 時 59 分 再開]

○川上委員長

委員会を再開する。

先ほどの意見を踏まえて、取組課題のまとめを修正した。まず、道の駅ゆうひパーク浜田の問題の、アについては「夕日の絶景を生かしながら、市民が楽しめるような空間の整備」、イについては「促進」、ウについては「PR」という文言を加えた。地域小売店の問題の今後の対応の中に「コンパクトシティを見据えた浜田駅周辺活性化に向けた取組」という形で加えている。小規模農家への支援についても、今後の対応に「地産地消の推進に向け」という文言を加えた。

○牛尾委員

建設業の問題点についてだが、以前地域井戸端会で話した際に、別途考えてほしいという意見があった。農業委員会で建議書を作成した経緯もある。農道整備を合併前の浜田市全域で行うと、建設業も潤う。例えば約 10 億円の枠で農家の玄関まで道

路を整備しようということをやった。これはある種効果があった。約 10 年のスパンでインフラ整備を前倒しでやるような仕掛けをしないとどうにもならない。今後の対応の中に、例えば「建設業支援 10 年計画」のような文言を持ってきてもらえないかと考えている。

○大谷委員

都市計画の中でもコンパクトシティに向けて道路をどうするかという話が出てくる。そういったところで建設業の方にも貢献できる計画となると思う。そういう表現はあっても良いかと思う。

○牛尾委員

今までそういう名目でやったことはなかった。所管委員会として「10 年 100 億円計画」として打ち上げて良い。

○大谷委員

これまで整備したインフラを長寿命化するのにお金がかかる。今後行わなければならない投資だと思う。

○川上委員長

では、「100 億円」という文言を追記する。加えて、今後の対応の中に「次期の委員会においても、委員会としての考察を踏まえて取組課題として検討されたい」という形で修正する。

(「はい」という声あり)

それでは、そのように修正して、議長に報告することよろしいか。

(「はい」という声あり)

この取組課題の調査は終了することになるので、よろしく願います。

3 その他

○川上委員長

9 月 16 日に実施した意見交換会の報告書を作成している。サードプレイスについて、委員間で協議していくことはあるか。有益な意見交換会であった。主な協議内容、質疑内容、当委員会の各委員の意見と所感を記載している。このような形での報告でよろしいか。

(「はい」という声あり)

この件に関しては、各委員、引き続き注視していただくようお願いする。

以上で産業建設委員会を終了する。

[11 時 00 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員会委員長 川 上 幾 雄